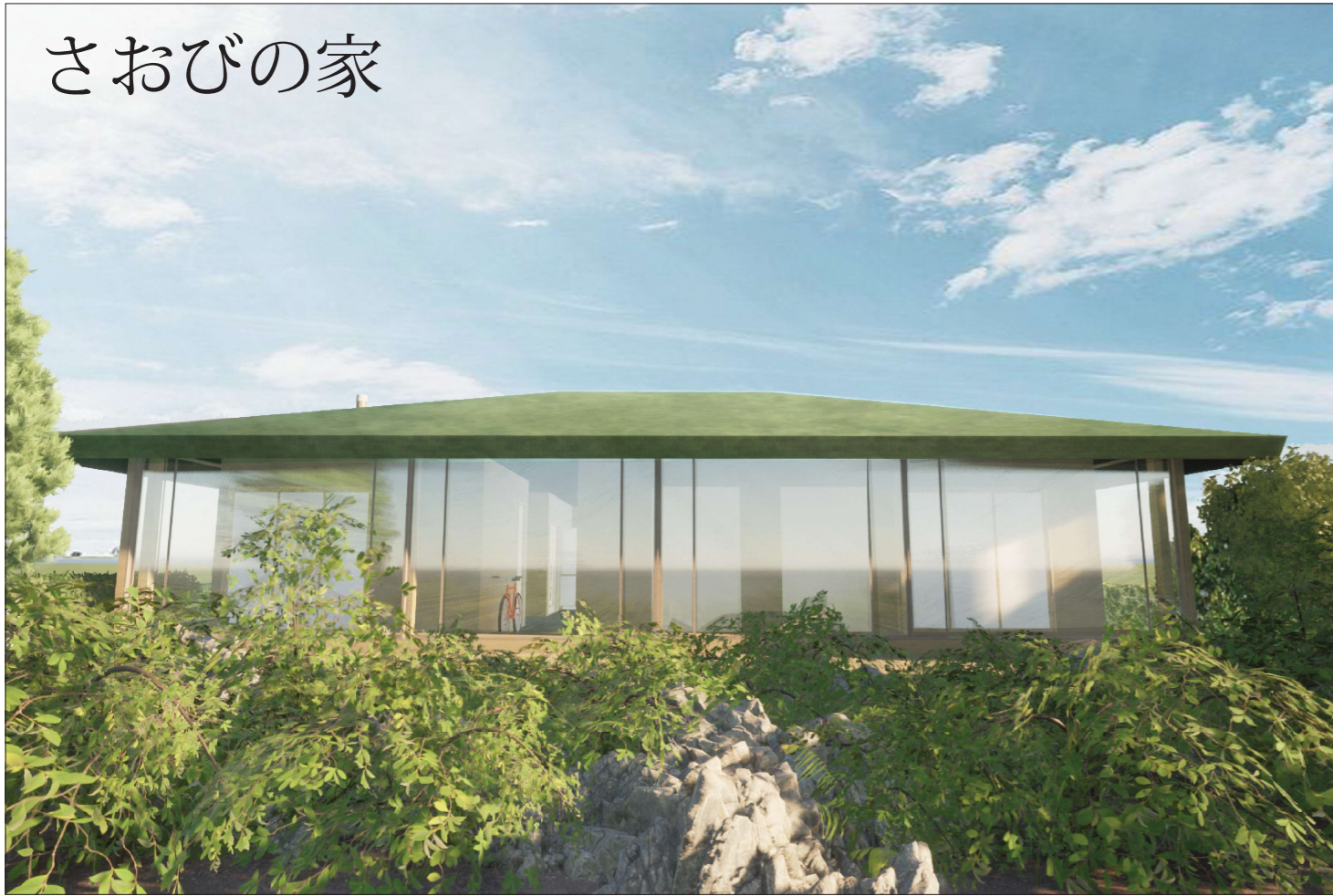


さおびの家



断面図 1/100

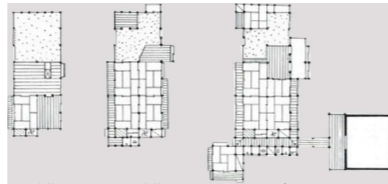


東側立面図 1/100



01 Background

「さおび (熟帯び)」とは時間を軸とした空間構成を意味している。日本空間の特性のひとつとして空間性格の未決定性と他との親和性があげられるが、言い換えれば外部の変化や働きかけによってその空間は常に変化する可能性を持っていると言える。こうした時間的変化の処理において我が国の空間づくりはこれに富む構成をとっていたと言えるだろう。しかし、近年の住宅の間取りにはほとんどの場合固定された壁面によって形成されている。これは最善策といえるのか、生活様式の変化を鑑みながらこれからの住宅の間取りの在り方について考えていく。

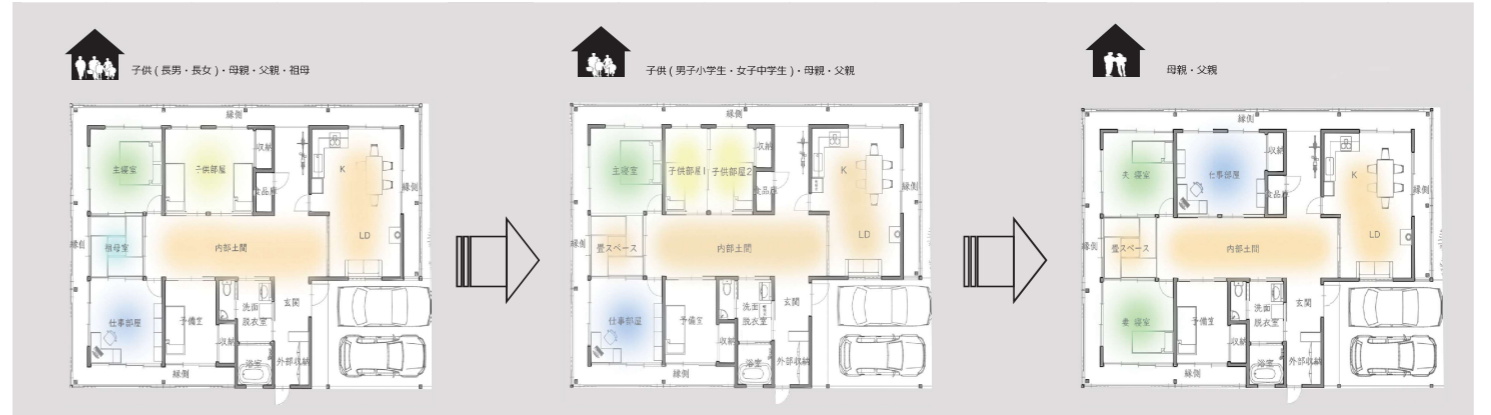


02 Concept

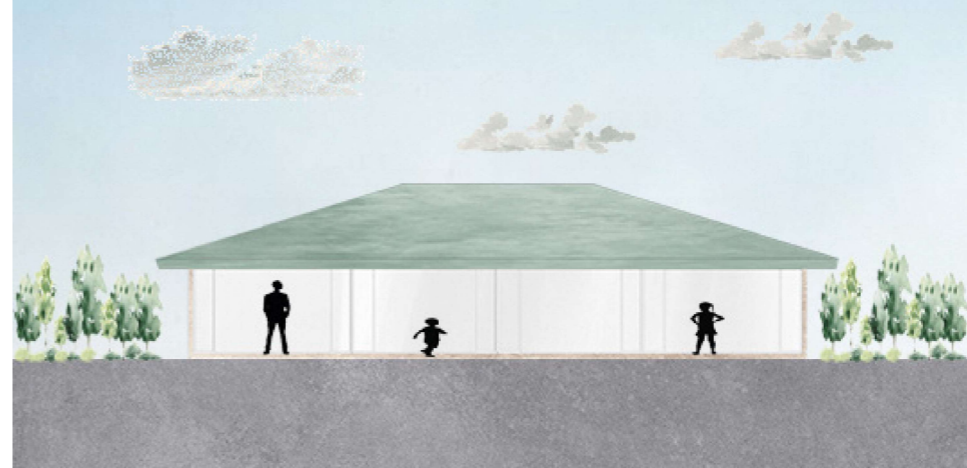
住宅では来客や季節、子供の成長や独立などによる変化がおこるものであり、これに対応していける間取りが必要と考えた。そこで各部屋の壁面の一部を可動間仕切りとすることで必要部屋数の増減を可能とさせ、空間そのものを変化させるようにした。また中央に中間領域となる内部土間空間や周囲に回遊できる縁側などを設けることで、各部屋を仕切るだけでなく繋がりのあるひとつの空間を演出する計画とした。

03 家族構成と時間と変化する間取り

時間が経つと共に家族構成も変化する。その家族構成の変化に合わせて間取りを自由に変化できるように、可変なスペースに間仕切りを設置し部屋の構成を変化できるように計画した。時間経過の中だけで部屋を変化するのではなく、間仕切りを活用することで、天候やその時の気分によって部屋の形を自由に変化するフレキシブルな構造となっている。内部空間に縦横に交わる広い土間空間を設けることで、空間同士を意識的につなげるとともに木造の住宅に適した柔らかな空間を生むことができる。



北側立面図 1/100



04 可変する生活様式

